

令和5年度 板橋区自殺対策地域協議会 会議録

会議名	令和5年度 板橋区自殺対策地域協議会
開催日時	令和5年12月6日(水) 午後2時30分～午後4時30分
開催場所	グリーンホール701会議室
出席委員	【委員15名】 西村委員、奥村委員、税所委員、齋藤委員、赤迫委員、臼井委員、葺澤委員、桜井委員、市川委員、岩本委員、前田委員、小林委員、宮澤委員、宮津委員、鈴木委員(欠席6名) 【事務局4名】 折原健康推進課長、いのち支える地域づくり推進係長1名、係員2名
会議の公開(傍聴)	公開(傍聴できる) 部分公開(部分傍聴できる) 非公開(傍聴できない)
傍聴者数	2名
次第	1 開会 2 委嘱状交付 3 議題 (1) 「板橋区いのちを支える地域づくり計画2022」最終評価報告について (2) 板橋区の自殺の現状及び取り組みについて (3) その他情報交換 4 閉会
配布資料	次第 資料1 委員名簿 資料2 板橋区自殺対策地域協議会設置要綱 資料3 「板橋区いのちを支える地域づくり計画2022」最終評価報告について 資料4 板橋区の自殺の現状及び取り組みについて 参考資料 東京都自殺総合対策計画(第2次)概要
審議状況	1 開会 2 委嘱状交付 3 議題(司会:会長) (1) 「板橋区いのちを支える地域づくり計画2022」最終評価報告について (事務局から資料3について説明)

(会長)

説明ありがとうございます。このコロナ禍で色々な事業の実施が難しい中、これだけの結果を出してきたというのは、本当に区の方にご尽力いただいたのかと思います。令和4年度になって、ほとんどの事業の達成率が90%を超えているということですが、11ページの総合達成度がcというのは、できなかったということによろしいでしょうか。

(事務局)

はい。おっしゃるとおりでございます。7ページに評価の基準を記載させていただいておりますが、cというのは目標に対して停滞・未達成という事業になります。

(会長)

cの事業がなぜできなかったのかを聞きたいのですが、「職層研修」というのは達成されなかったのですね。

(事務局)

人事課で行っている研修なのですが、そのカリキュラムにゲートキーパー研修を組み込むことが難しかったということでcにさせていただいております。

(会長)

そういうことなのですね。ありがとうございます。次に「健診等を通じた健康管理に関する支援」がcになっているかと思いますが、ここはできなかった理由というのはどういうものなのでしょうか。

(事務局)

コロナの影響によって、集団健診の実施ができなかったことによるものです。

(会長)

それは令和4年度になっても、形を別にして実施というのはなかったのでしょうか。

(事務局)

令和4年度は実施できたのですが、こちらは3年間の最終評価になりますので、1年目2年目ができなかったということでcになってしまいました。

(会長)

令和4年度はできたということですね。先ほど自殺の理由のところが増えた「健康問題」というところで気になったのですが、あまり厚生労働省や東京都が詳細を出さないの分かりにくいかもしれないのですが、この「健康問題」について、高齢者とかは体の健康が結構あるかもしれませんが、多くは心の健康になってくるかと思います。健診とかで心の健康まで診られるようになったらいいなと思いました。

あと総合達成度がcになっている事業として「人材確保支援事業」「ファミリーサポート事

業」「東京司法書士会主催「いのちを守る何でも相談会」「東京商工会議所の経営者向けセミナー、冊子配布」「男性を対象として料理教室」等について実施が難しかったということですが、その辺りで説明があればお願いいたします。逆にa評価というのは思っていたよりもよくできたというものかと思えますけども、主催者側として具体的に教えていただくことがあったら説明をお願いいたします。

(事務局)

aは夙調、90%以上の達成度の事業については基本的についております。それ以上できていたかはこの表からは分からないのですが。

(会長)

そうなんです。3ページで説明がありましたが、「達成+」を見ると令和4年度は7つの事業があります。主催者側から見て、思った以上の内容、効果があったのかなと思ったのですが。

(事務局)

自殺対策は人材育成ということで、特にゲートキーパーの拡大というところで、区の職員向けの研修に力を入れておりまして、表で言うと11ページの下の方、コロナ禍ではあったのですが、対面での研修はもちろん、オンラインで実施することも途中から開始いたしまして、ハイブリットで実施するようになって、1000名近い職員に対して研修を実施してきました。令和5年度は、年度の途中ではありますが、1700名を超える職員の方に、ゲートキーパーの役割や考え方について共有ができております。特に区役所の場合ですと、お客様と直接接する機会がある窓口に配属されている職員が多いので、この計画策定がきっかけになって取り組みが広がっているのではないかなと思います。

(会長)

ありがとうございます。残念ながら自殺者数はこの数年微増ということで、目に見える形にはなっていないかもしれませんが、自殺対策というのは、水際対策とか即効性のあるものだけではなく、今のゲートキーパー研修も含めて、これから長い目で見て効果の出るものも多いと思いますので、そういうところも見ていただきながらご意見いただけたらと思います。2つの議題が終わってから、情報交換というところで、特にどの項目ということではなくても、全員からご意見いただきたいと思っておりますが、まずはこの議題の件で、ご意見ある方いらっしゃったらお願いいたします。

(税所委員)

「子ども・若者への支援」の達成率なのですが、事業数41事業とありますが、達成度評価の表の令和4年度について事業数が40になっています。また重点施策の「地域とのつ

なかりが持ちづらい中高年男性への支援」についても事業数12とあるのですが、達成度評価の表の令和4年度では事業数が11となっています。数が1ずつ合わないのですが、何か取りやめになった事業があるかどうかお聞きしたいです。

(会長)

事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

表の下に書かせていただいておりますが、「子ども・若者への支援」「地域とのつながりが持ちづらい中高年男性への支援」ともに令和3年度で完了な事業があるため、事業数が減っております。

(会長)

ありがとうございます。その他ご質問ありますか。

私からもう少し質問させていただきたいのですが、16ページの「子ども・若者への支援」についてCが27個で、少なめに評価されているものが多いなと思ったのですが、評価の仕方の問題なのか、やり方の問題なのかと思った次第です。

(事務局)

質的な評価になりますので、例えば、危険因子が健康問題だけに特化している場合にはCになってしまいます。評価がCだから悪い事業ということではなく、各所管が自殺対策に関わっているという自覚を持ってもらうというところに力点を置いているものでございます。

(会長)

まるで効果の低いものをやっているように見えてしまうのが、非常に残念な感じがしますね。この評価の仕方について、以前も議論があって、なんとか質的なものを評価したいということで始めましたけども、逆に幅広く対応できる事業じゃないものに対しては評価が下がってしまうというのが、とても残念だなと感じました。

(事務局)

実際スタートしてみると、この評価の仕方だけでは計りきれないものが出てきてしまうなと感じているところはあるので、新しく走り出している計画に関しても、何かしらブラッシュアップできるのであれば、検討を進めていきたいと思っております。

(会長)

ありがとうございます。この議題に対するご質問は他によろしいでしょうか。

続いて議題「板橋区の自殺の現状及び取り組みについて」事務局よりお願いいたします。

(2) 板橋区の自殺の現状及び取り組みについて

(事務局から資料4について説明)

(会長)

ありがとうございました。データのなところから見ると、一時、女性や若い人の自殺が増えていたのが落ち着いて、コロナが終わったところで、50代や男性が増えました。原因的にも、経済問題のところが出てきたり、失業者や年金・雇用保険等生活者が増えたというのが、令和4年になっての傾向です。令和2年、3年のコロナの影響が強かった時期とはちょっと違う方向に動いているというのが見えたのかなと思います。特に男性の経済問題が出てきているのもこの1年の傾向なのかなと思います。出張ゲートキーパーをやらせていただいて、地域の方々と触れ合わせていただいてありがとうございます。ただ、若干心配なのが、もう少し支援者の方が来るかなと思ったら一般の方が多くて、もちろん一般の方にもゲートキーパーになっていただくというのは大事なことであるとは思いますが、ゲートキーパーにならなきゃならない割合は、支援者、もちろん区の職員の方もそうですが、専門に関わっている方が多いと思いますが、あまり興味がないのかなと私は心配です。支援職の方は皆さんお忙しいのかなと。ゲートキーパー研修動画を見させていただきましたが、困っている人に対して皆さんが気にかけてくださるというのは大変ありがたいことだとは思いますが、私が区役所などをお願いするときに受けてもらえない人というのは、困ってそうに見えるというよりは、面倒くさそうですとか、問題児的な人ですとか、地域の中で色々注文が多かったりとか、約束が守れない方とか、そういうような方にもたくさんハイリスク者がいるわけです。しかし、その辺りに焦点が当たらず、いかにもつらそうだという人たちだけをケアすればいいのだという感じになってしまうと、見落としてしまうかなと感じました。入門編でそこまで入れるかは別としても、支援していて感じることとして、地域の方がなかなかその人に関わってもらえないような事情がある方が、結構自殺未遂をしてしまうことがあるかなということです。他に感じたことございましたらお聞きしたいです。今私が言ったことどうなのかなと心配ですが、奥村委員どうでしょうか。

(奥村委員)

やはり、つながる人というのは希望のある人ですよね。つながれない人をどう拾っていくかというのが一番大きなところ。相談してみようとか、そういう意欲がなくなっているようなうつの方が地域とどう関わっていくのか。そういう人は家から出ないでしょうし、本当に行動が限られていると思います。そういうところに焦点を当ててサポートするというのが必要になってくると思います。

(会長)

ありがとうございます。ゲートキーパー研修の講師をしていただいております齋藤委員いかがでしょうか。

(齋藤委員)

いつも熱心に区の方が取り組んでくださっているのですが、できるだけ多くそういう機会を設けていただきたいです。例えばゲートキーパー研修ですが、いつも設定してくださる日程が平日だったりすると、お勤めの方が出られないかなと思いますので、色々ご都合あるかとは思いますが、そういう方たちも出席できる土曜日とか、色々な機会を作っていたら嬉しいかなと思います。もう一つ、5ページのところで、板橋区が全国や東京都に比べて自殺死亡率が高くなっているという図7があって、次に図8で23区で4番目となっていますが、一番自殺率の低い文京区は何か特別な対策とかをされているのでしょうか。もしご存知だったら教えていただければと思います。

(事務局)

板橋区のほぼ半分ぐらいの死亡率になっていますが、地域的な何かがあるのか、特別な対策をしているのか今情報がないのですが、おっしゃるとおり興味深いところでありますので、今年度計画を策定しているとのことなので、中身について文京区の方に聞いてみたいと思います。

(齋藤委員)

もし文京区でやっているものがいいい取り組みであれば、板橋区も取り組めるのであればよいのかなと思いました。

(会長)

他にいかがでしょうか。それではその他情報交換に移らせていただきます。

今までの話に関連することでも、まったく関連しないことでも構いませんので、皆様から自由にご意見を出していただければと思います。赤迫委員お願いします。

(赤迫委員)

私たちは高齢者の相談を受ける窓口ということで、区の対策事業の中で、「ひとりぐらし高齢者見守りネットワーク」という事業があります。一人暮らしで自分のことを不安に思っていて、心配だという方が登録をされます。先ほど奥村先生がおっしゃったみたいに、そこに上がってこない方、認知症が進行してしまった状態で見つかる方だったり、地域の目に上がってこない方をどうするかというのがどこの現場でも課題なのかなと思いました。

(会長)

ありがとうございます。なかなかご家族の方も関わるのが嫌だと言われてしまうと、難し

いですね。何か手があるといいですね。それでは臼井委員お願いいたします。

(臼井委員)

今重要と思うのが、地域で色々と話をするおとしよりが少ないなど。実は私民生委員もやっております、赤迫さんがおっしゃっていたように、おとしよりの中で、月に1回は民生委員が訪ねて行って、お話を聞くというようなことをするんです。登録されている人はまだいいんですよ。訪ねて行って出てきたおとしよりの方とお話を聞く時間が今まで以上にあって、10分、20分だったりするんですね。それによって、同じ住宅に住んでいるおとしよりの情報が分かってきて、登録されていない方の情報もわかって、ついだから訪問してみても話をしたりします。町会の役員をしていましたという方のお話を聞いたりしますが、コロナがあつたりして集まる機会が少ないのです。町会自体が地域の高齢団体みたいになっていて、若い人が全然いないのです。そうすると若い人の意見を聞けない、そういう閉塞状態みたいな状況があるのですが、小茂根4丁目町会の方々はお餅つき大会や民謡など、地域の行事をしっかりとやってらっしゃるんですね。みんなが集まる機会がある。そうするとお話しする状況が作れているんですよ。1番は地域のコミュニケーションですよ。そういう機会が本当に減っているのではないかと思います。出てきてお話しする機会を作ると言うことが非常に大切なんじゃないかと思います。事業所でも話をただけですっきりしたと言って帰っていきますよ。精神障害を持った方でも次の日も元気で来てくれる。ただただ仕事をするような事業所にはしたくないなと思います。

(会長)

ありがとうございます。今までの活動をやってきて、さらに地域の活動もしていただいているということで、色々なものが見えてくるのだなと思いました。自殺対策の前にもっとベーシックなところ、板橋区の良さでもあると思うのですが、地域でお祭りが残っていたりですか、色々な地域活動があるというのは、他に東京都内9つの会議体に関わっていますが、板橋区が一番そういうのが残っていていいなと感じております。しかし、コロナでそういうものが失われてきているところもあると思いますし、高齢化だったり、若い人たちがそういうものに興味を持たなかったり、とても残念なことだなと思いました。私もゲートキーパー研修の中で、一番大切なのは挨拶、と言ったりするぐらいなのですが、そういう基本的なところが大事なのだと、お話聞いていて思い出されました。自殺対策に特化しているわけではないけれども、そういうところに力を入れていくことが、長い目で見たら自殺対策につながっていく、結果的に自殺が減るのかもしれないなと思いました。

(臼井委員)

板橋区内で秋ごろにフェスティバルとつくイベントをやっているかと思います。民生委員

の方や地域センターの方々が中心になって、そこに人が集まってきて、小さい子から全部集まるんですよ。そういうものが色々な人と関わる機会を作れるんじゃないかなと思います。それを推進していただけるといいと思います。

(会長)

若い人も在宅勤務の方が多かったりして、会社でもコミュニケーションがなかつたりするので、そういう機会が必要なのかなとも感じました。何か対策に入れられるといいですね。次に葦澤委員からお願いいたします。

(葦澤委員)

板橋区のアルコールの酒害の家族のグループワークに月1回勤務させていただいております。皆さんご存知のようにコロナ禍になって飲食店で飲むアルコールの消費量が減っていきまして、在宅で飲む消費量が非常に増えてきています。スーパーに行ったときに職業柄酒売り場をチェックしますが、昔はアルコール依存症のイメージとしては焼酎の大五郎でしたが、最近はストロングの缶チューハイなんですね。あれが非常に売れておりまして、女性の方も500mlを4つぐらい買っていて、あの方どんな飲み方するのかと心配になったりする時もあります。11月22日に厚生労働省が飲酒のガイドライン案を出していて、1日40g以上飲む方は健康被害のリスクが高いですと言っています。女性はその半分です。40gと申しますと、缶ビール500ml2本で40gになります。女性であれば1本です。そうなるリスクの高い方が非常に多いなと思いました。それ以上に飲む方は、多量飲酒自体が自殺行為だと私は思っております。11ページを見ますと30～39歳の死因で第3位に肝疾患と書いてあるのですが、ウイルス性なのかアルコール性なのかわかりませんか。

(事務局)

そこまでは分かりかねます。

(葦澤委員)

そうですか。しかしながら、一番アルコール依存症の方の亡くなる年代というのが、30～39歳なのですよね。一方で60～69歳の死因第3位も肝疾患が入っています。肝疾患が出てくるようになったのはお酒と絡んでいるのかなということが気になりますね。そう考えると、アルコール問題に少し力を入れた方がいいのかなと思いますけども、2016年から国がアルコール健康障害対策基本法というのを作って、各自治体で基本計画を立てて、普及啓発活動やこういう問題についてネットワークを作りなさいということで、東京都も動いているわけですが、そんな中、AUDITというアルコール問題スクリーニングテストあって、8点以上からイエローカードということ、自分で簡単にできるもの

なのですが、区の色々な施設に設置できるというのかなと思います。私たちも自分たちの病院名を入れてお配りしているのですが、そういうことを先進的に取り組んでいる三重県の四日市の代表の方に、どこにチラシを置くのが一番良いですかと聞いたのですが、警察の生活安全課だとおっしゃっていました。それで私も近隣の生活安全課へ郵送させていただきました。最近そういったところから紹介されていらっしゃる方が増えてきました。板橋区でもそういった簡易的なスクリーニングテストを作成して、学校などもアルコール問題でお子さんも多大な影響受けておりますので、色々なところでお配りして、自殺予防につながるのかなと思います。

(会長)

ありがとうございます。板橋区は酒豪が多いのですね。板橋だけウイルス性疾患が多いとは思えないですね。アルコールの問題を抱えている人はなかなか自ら相談するということはしませんので、警察等にお世話になったときに、きっかけになるというのはとても大事なのかなと思いました。桜井委員お願いいたします。

(桜井委員)

厚生労働省のこころのサポーター講座というものが始まりまして、それに従って、区独自でやっていたこころの健康サポーター講座というのが今年の3月に無くなりました。私たちは区の講座修了者で活動してきました。今後は新規会員加入がなく困っています。しかし活動はしてまして、昨日も12月の定例会があったのですが、初めての方がいらっちゃって、若いときから統合失調症になられていて、みんなが話しているときに、板橋区の絵本の読み聞かせということを誰かが言った時、その方の顔がぱっと明るくなったのです。そういう意味ではこういう会はまだまだ続けていきたいと思っております。

ご説明いただきました評価の話ですが、2025計画策定時に議論しました質的評価を取り入れて、16ページにまとめていただいております。こちら大変良かったのではないかなと思っております。今度2025計画のときにどう評価していくのかというと、一番上にありますABCの中に、達成度のabcがくっついてくるのではないかと思います。そういうふうに評価できますか。そうすることでもっと詳しい評価ができるのではないかと思います。

(事務局)

クロス集計ということでよろしいですか。

(桜井委員)

例えばゲートキーパー研修という事業の総合達成度はaとなっていますよね。これがAであれば、Aa。私たちの会社でやってきたウェイト付けをするのですよね。Aをウェイトとし

て a b c をスコアと考えて、掛け算で評価が出るという、何か決定するときの一つの指標にしてあげるといいのかなと思います。

(事務局)

ありがとうございます。クロス集計のことだと思いますので、クロス集計については現行の計画の評価の際にもう少し練ろうと思っております。

(会長)

最後、総合評価しか入れてないけど、他のものも入れたほうがいいのかないかなというふうに感じました。色々な指標があるので、まとめた表があると見やすいかもしれないし、それを評価することもできるのかなと思います。

(宮津委員)

おそらくクロス集計のことではないと思います。例えばここでAの中に a b c として、縦横で組んだときに、Aは3点、Bは2点、Cは1点、aは3点、bは2点、cは1点ということで、一つの事業を同じ1点とみるのではなくて、掛け算して最高が9点、一番低いのが1点として重みをつけた上で、トータルで判断したほうが達成度が分かるのではないかなということをおっしゃっていたのですよね。クロス集計ではなくて、それぞれの事業の重み、達成度についての重みみたいなものを反映させて表を組めないかなということだと思います。

(会長)

ありがとうございます。全体的にばらばらとなっていて一つ一つの関連が難しくなっているので、そういうふうにするのもいいのかなと思いました。ここらのフラットの活動が縮小してしまっているのはもったいないと思いますが、新しく入ってくる人を勧誘できる方法があるといいなと思いました。続いて市川委員お願いいたします。

(市川委員)

板橋区さんとは協働で駅前でのキャンペーンをさせていただいておりますが、昨年度の東上線内で人身事故が23件発生しております。この中で、板橋区内にある駅大山から成増の間では、自殺という細かい部分までは拾えていないんですけども8件発生しております。その中で鉄道としてどのような取り組みをしていったらいいかというところで、まずホームの端に青色照明を設置しています。青色の照明は心を落ち着かせてくれる効果があると言われております。他にはアロマを焚くことで心を落ち着かせるということで、コンコースにアロマディフューザーを設置している駅もあります。積極的に自殺防止のための設備の設置を進めていきたいと思っております。私は大山駅には10月に来たのですが、その前は本社で10年間安全衛生を担当しておまして、社内の病気で休んでいる方の対応を

しておりました。その中でうつ病とか、適応障害とか様々な所属員と話をした中で、やはり誰とも話したくない、会社にも行きたくないという人について、どうやって悩みを拾ってあげるかという部分を悩んだ記憶があります。電話も出てくれない、自宅に訪ねても会ってくれない、LINEをしても返信が来ないということが非常に悩みました。そういうときに助けになったのはやはり家族でした。家族の方とコンタクトをとって話ができたということもありますので、なかなか病気で休んでいる人が直接区の相談窓口で電話するのは難しいと思いますので、周りにいる家族がいかに相談できるかというのが大事だと思っています。もし家族もだめでしたら、一人暮らしということもあると思うのですが、そういう部分は積極的に企業のほうでアプローチしていき、企業と行政と地域で一体となって自殺防止に取り組んでいかなければならないのかなと思います。

(会長)

ありがとうございます。お客様対応と、社員の方の対応と両方されているということですね。私たちメンタルケア協議会の電話相談の中で、駅から相談してくださる方がいて、私たちが止められないときに、駅へ連絡して保護してもらおうというのが結構あります。昨日も新宿駅であったので、救護室へ案内していただくとしたら、救護室もいっぱいですということで、警察に保護していただきました。そのぐらい駅では保護していらっしゃるのだなと思いました。ぜひそこで気づいていただけたらなと思います。

(市川委員)

ハード面ではいろいろな設備を設置することで対応しておりますが、ソフト面でも職員に対しては、困っている人を見かけたら、お困りのことありますか？と声かけを積極的にやるように進めています。

(会長)

ありがとうございました。岩本委員お願いいたします。

(岩本委員)

予防的観点より、一つご質問させていただきたいのです。ゲートキーパーということで予防の入り口で広く進めていただいているのかなと思うのですが、今現在で板橋区さんではゲートキーパー何名いらっしゃるかと把握されているのでしょうか。

(会長)

登録制ではないので、研修を受けていただいて「延べ何人の方が受けていただいた」等は先ほど説明していただいたのかなと思います。

(岩本委員)

ゲートキーパーを介して、例えば相談窓口につながったケースが何件あるのかというの

も把握されているのかなと思ひまして。極端な話、全員ゲートキーパーであればお互いがお互いをフォローしあうことが出来るのかなと思うのですが。効果的なものとして、今までどういう活動をやってきたから、これらの活動がうまくいきましたよ、というところまで掘り下げられれば、ゲートキーパーの重要性を広く訴えられることができ、もっと研修を受けましょう、みんなで手をつないでやってきましょうと言ひやすいのかなと思ひました。ゲートキーパーという名前で、講習受けた方からこういう窓口紹介されましたというケースは過去にあるのでしょうか。

(会長)

そもそもの考え方が、日本国民全員がゲートキーパーになりましようというものなんです。特にゲートキーパー研修を受けなければゲートキーパーになることが出来ないわけではないです。あくまでも意識づけのために名前がついているのです。基本的には身近な人たちがお互いに助け合ひましよう、元気づけあいましようという意味なのですけど、意識づけのために研修を受けて、やはり分かつてあげる人がいたらいいよねという、そういう普及です。逆に言う、ゲートキーパー研修受けてないから私はゲートキーパーじゃないから関わらない、みたいな風になってしまうのもちょっと違う形になってしまうんです。ゲートキーパー研修で受けたことが役に立って、周りの人に対応できたとか、相談をお勧めできたということがあると思うのですけれども、わざわざカウントとかそういったことはしてないと思ひます。ゲートキーパー研修を受ける方は、身近に心配な方がいたり、家族に少し対応が難しい方がいたりして受けていただくことが多いので、そういったときに、役に立っている方もたくさんいらっしやるかと思ひます。もちろん、初対面の方でも活かしていただいている方もたくさんもいると思ひます。ただ、これは免許制みたいなのではないということです。

(岩本委員)

そこまでを求めてましよう、逆に敷居が高くなってしまうと思ひます。簡単に受けられなくなってしまうというか。時間とか費用とかいろいろ出てきてましようと思うのでそれは良くないとは思ひのですが、こういう研修をしていますよという募集はさせていただくのも一つの手かなと思ひております。ゲートキーパーの成り立ちとかその目的のところは薄いと、こういう制度がありますよと宣伝させていただいても、それじゃあな、といわれてましようのも嫌だなと思ひます。そこをいったん整理してみようかなと思ひます。会社の経営の中でメンタルヘルスの担当をされている方が、相談者の話を聞いているうちに、自分が具合悪くなってしまうという話を聞きまして、その時には、こういう窓口があるよというアドバイスはしたりはするのですけれども、企業に2、3人いればもっと広がるのかな

あとと思います。われわれも活用できるよう協力できるのかなとすこし思ったところがございます。

(会長)

ありがとうございます。多分、セルフケア的なところを含めてゲートキーパー研修をやることが多いので、そういう立場にいて、望まなくても来たらやらなくちゃいけない方はぜひ受けていただきたいというのだろうなと聞いていました。そういう企業さんからのご要望があれば、ぜひ研修できればと思います。次に前田委員お願いいたします。

(前田委員)

障がいのある方の職業相談をしている窓口になります。ですのでメンタルに不調を抱えながらお仕事を探したいですという方が多く見えております。自殺防止の観点からは外れているかもしれないのですが、研修動画を見させていただいて、少しでも貢献というか防ぐためにきちんとお話を聞いたり、あるいは私たちは医療機関ではありませんので、区や医療機関につなぐということもしていかなければいけないなと日頃より思います。

(会長)

ありがとうございます。私たちも、普通に就活しただけでは難しいなと思う方を結構ハローワークさんをお願いしております。その後どうなっているのだろうととても心配になりながら、見ていただけるとありがたいなと思っております。ありがとうございます。小林委員お願いいたします。

(小林委員)

私も何回かこの会に参加させていただいております。自殺の救急の特徴などをお話させていただいております。今日の会議で、ゲートキーパーのお話にとっても感銘を受けまして、自分自身がゲートキーパーにならなきゃいけないという意識が低かったのではないかなという感じがしました。皆さんと違って、消防士、現場の救急隊員はゲートキーパー的な意識を持っている人はあまりいないと思います。施策を推進して下さって、その中でも出張ゲートキーパー研修という良い制度があるみたいですので、ちょっと現場の救急隊員を集めて、この研修に出させていただきたいと思います。是非、その際はよろしく願いいたします。

(会長)

ありがとうございます。とてもうれしいです。私たち、結構救急隊員からも相談を受けておまして、行ってみたものの、病気ってよりは精神的なところのお悩みだったりします。どうしたら良いかわからず、精神科につなぐっていても病院もないしどうしようみたいな相談も受けたりもします。そういったものを支援につないだりしていただけると本当に

ありがたいなと思います。宮澤委員お願いいたします。

(宮澤委員)

自殺する18歳以下の子供という点では、令和2年に499人で過去最大ということでマスコミの間でもかなりの大騒ぎになりました。令和3年は少し減って、令和4年は500人を超え、過去最大を更新してしまいました。子供たちの現状といいますのは、ヤングケアラーとか貧困状態とか不登校という問題があります。特に板橋区では、小学校・中学校を合わせても不登校の子供たちが1,000人を超えています。その中でもひきこもり傾向にある人たちが学校にいるものとして少し心配なので早めに手を打っていきたいと思っております。先ほどからもお話がありますが、ひきこもってしまう子どもというのはコミュニティがうまく機能しておらず、地域とのつながりができていないというところですので、人と人の触れあいというところからいのちの大切さを学んでくれたらと思います。学校の道徳とかでのいのちの大切さだったり、なにか悩みがあったらここに電話してくださいといろいろとやってみてはいるのですが、そういった生活基盤というところから育てていきたいと思っております。

(会長)

ありがとうございます。自殺未遂者支援の中でも小中学生の数は増えていて、本当に痛ましいと思います。ご家族だけでは対応しきれないことも多くて、学校が一番の入り口になってくるかと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(桜井委員)

一つ思いついたのですが良いですか。いのちの電話というのがあると思うのですが、全国に先駆けて板橋区は掲示板とかで貼ることはできないですか。例えば、駅でもいいのですが、椅子とか停留所に貼ることはできないでしょうか。それからもう一つ。板橋区と生活相談窓口リーフレットのことなのですが、私は相談に来た人には、これを渡すようにしています。しかし、例えば自殺しようとしている人は神経が細くなっているので字が見えないのではないかと思います。ですので、ここに「総合窓口案内」みたいのをいれられないかなと思いました。以上です。

(会長)

ありがとうございます。時々キャンペーンなどで駅が協力して貼ってくれているところもあるかと思えます。一年中というわけではないと思うのですが、ただ、いのちの電話はかけてもかかる確率は相当低いです。現状でいうとこれ以上殺到してしまっても困るので、その人の悩みに応じて電話をかけることができるのであれば、そちらを優先していただいたほうが良いかなと思います。理想的にはワンストップで全部防かれば良いので

すけれども、なかなかそうはなっていないというのが現状なのですね。相談先のわかりやすい見せ方とか、必要な時にすぐつながるということが大事だと思います。そういうのもどういう風にしていったらよいのかというのを考えていただけたらと思いました。

奥村委員や税所委員なにか追加がございましたら、お願いいたします。

(奥村委員)

30代から50代の男性の方の自殺が多いということで、例えば独居の方なのですが、買い物するも外に出ず、人の顔も見えないような感じです。それで在宅勤務であれば、人と会わないだけでうつっぽくなってしまふ。そういう人達が地域の方たちと触れ合う機会がないと思います。そうなってくると、やはりスマホですね。スマホですと皆さん大体使っていると思いますし、それこそお子さんにも使えると思うのですけれども、最先端なところだと、AIが個人の精神療法、認知行動療法的な部分、そういったものを担ってくれるスマホのアプリやフリーのスマホアプリを落とした時などの広告でゲートキーパーの役割が出来てくると、もしかしたらもう少しスムーズにつながったり、対策につながったりすることが出来るのかなと思いました。

(会長)

はい、ありがとうございます。研究事業とかでは始まっておりますけれども、まだ、実装化されてなく、これからというところはあるかと思います。ありがとうございます。税所委員なにかございますか。

(税所委員)

先ほど、区の職員は支援者であるとお聞きして、医師も支援者であるべきだと思いました。区内の先生はどれほどそれを意識しているのだろうかと動画を聴いて思いました。おそらく自分の患者さんを診ているときに、ゲートキーパーあるいは支援者であるという意識は本当はないと思います。区内の先生などに「あなたは支援者なのですよ」と言うのは勝手ですから、向こうが言われてどういう風に感じるかはまた別話ですので、できるだけそういうPRの機会を区のほうで作っていただきたいと思います。私が提案できるのは、区の医師会のメンバーのサイトというものがありますので、先ほどの10分くらいだったと思うのですが、区の職員向けの動画の「区の職員」というのを「区の医師」という風に読み替えてあるいは聞き替えて、視聴してくださいとするのがいいと思います。あるいは、産業医の講習会というものがありますので、そこで参加者の皆さんが会場に集まるときに、先ほどの動画を流しておくとか。支援者であるということをもっと積極的に言うだけであれば医師のほうも「あ、そうなんだ」という風に意識できると思います。

(会長)

	<p>ありがとうございます。最後に鈴木委員に締めさせていただきたいと思います。</p> <p>(鈴木委員)</p> <p>事業評価報告として、いのちの計画2022につけてみたのですけれども、試しにやってみたら、またいろいろなことが見えてきましたのでさらに工夫をしていきたいと思っております。やはり、コロナはすごく影響が大きかったなと思います。私たちもすごく振り回された3年間で、今はちょっとほっとしている状況なのですが、本当に地域にとっても大変だったなと思います。出てこない人の問題ってどこに行っても、どこの自治体でも言われている問題なのでやはり、難しい問題なのだと思います。板橋区では今年、区民まつりそれから農業まつりが戻ってきまして、板橋区にはちょっと昔風で楽しいものが残っておりますので、そこに出てきてもらうような工夫ができないかなって思っております。是非皆様のお力をお借りして、地域に出てきたいなという方を増やすことが出来ないかなと思っております。本当にいろいろなご意見をうかがわせていただきましてありがとうございました。</p> <p>(会長)</p> <p>皆さんお忙しいところ集まっていたいただきありがとうございました。本日はこれで終了になります。お時間を少し超えてしまい申し訳ありませんでした。ではこれで事務局のほうにお返しいたします。</p> <p>(事務局)</p> <p>閉会の挨拶</p>
<p>所管課</p>	<p>健康生きがい部 健康推進課 いのち支える地域づくり推進係 (電話：3579-2311)</p>